

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2019年12月26日～2020年1月1日）
臨時休館日 2020年1月7日
入場料 一般300(240)円 高大150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。
()内は20名以上の団体料金

瓦版 大木戸

Kawaraban OKIDO

Vol.62

2019年（平成31年）3月31日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www.2.chiba-muse.or.jp/MURA/>

房総のむらでは敷地内の自然環境の状況をj知るため、平成二十六年度から平成二十九年j度までの約四年をかけて、昆虫の生態調査を実施しました。この調査は、千葉県内で昆虫の調査・研究・啓発事業を積極的にj行っている「千葉県昆虫談話会」の協力を得て実施したものです。

この調査の結果、当初の想像を遙かに超える豊富な種類の昆虫が確認されました。その中には関東地方で初記録三種の昆虫や千葉県内で初記録種が百六十種余りなど貴重な成果が得られました。この貴重な成果をj覧会として多くの方々にご覧いただき、房総のむらの自然の豊かさを、昆虫を通して改めて知っていただきたく、このトピックス展の開催となりました。

展示は大きく三つのコーナーから構成されています。

第一コーナーは「昆虫と四季」です。私たちが季節ごとに装いを変えるように、昆虫たちも季節ごとに多様な姿を見せます。年に一時期にしか現れないもの、何度も繰り返し現れるもの、季節に関係なく活動を続けるもの、限られた季節にしか活動しないものなど生態は様々です。春・夏・秋・冬の四季ごとにjられる昆虫のうち、代表的・特徴的な昆虫標本をj示しました。

平成三十年度トピックス展 「むらの昆虫」

第二コーナーは「昆虫と環境」です。最初昆虫と樹木の関わりについて、房総のむらを代表する樹木、マツ、ナラ、サクラとそれらと密接な関係で結ばれている昆虫を樹木ごとにj示しています。房総のむらの自然環境は、落葉樹が主体となり夏は薄暗く冬は明るいといった特徴を持つ「樹林」、日当たりが良く日中の温度差が大きく、草に覆われた「草原」、草原に近い環境ですが、さらに日中の温度差が激しく乾燥することも多く、多くの昆虫には余り好まれない「畑・荒無地」、豊富な水をたたえる「水田・湿地」と大きく四つの環境に分けることができます。そして、昆虫たちはそれぞれの環境に適合しながら力強く生活しています。これらの環境ごとの昆虫の生態をj示しています。

第三コーナーは「変わりゆく昆虫相」です。以前よく見かけた昆虫がほとんど見られなくなったり、逆に今まで見ることのなかった昆虫が普通に見られたりします。このように昆虫相が時間と伴に変化してゆく現象は、この房総のむらでも例外ではありませんでした。今回の調査では、関東・千葉県・千葉県北部地域でそれぞれ初めて確認された貴重な昆虫も多く見られました。しかし、従来この地域で普通に見られた昆虫の中に確認できないものも多くあります。このような昆虫相の移り変わる様相をj示してあります。

最後になりますが、四年間にわたる日中・夜間の調査、そしてその成果を取りまとめ、その一端をこのj覧会で分かり易くまとめたいいただいた「千葉県昆虫談話会」の方々に改めて感謝・お礼申し上げます。

（風土記の丘グループ 野口）



もう一つの「むらの昆虫」（北島和男氏作）

会場：風土記の丘資料館第三展示室
会期：平成31年2月2日（土）～
4月14日（日）

「ビックリひなまつり」

房総のむらでは平成二十七年から農村歌舞伎舞台でビックリひなまつりを開催するようになり、本年度で四年目を迎えました。期間中は寒い中、たくさんの方が訪れ、ビックリひなまつりを楽しんでいただきました（平成三十一年二月十六日～三月十日まで）。

農村歌舞伎舞台で展示したひなまつりの人形は、平成二十七年四月に募集をしたところ、十二世帯の方から利用してくれらるらと押し入れ等に眠っていた思い出深いお雛様を百四十体寄贈していただいたものが最初です。その後、五世帯から寄贈がありました。

本年度は百八十七体を展示しました。農村歌舞伎舞台の展示スペースの問題もあり、現在はお雛様の募集は控えています。

さて、七段飾りの飾り方について概略を説明します。

一段目（最上段）、一般的には向かって左側に男雛、右側に女雛ですが、大正時代まではその逆でした。日本の礼では向かって右側が上座であったことから雛人形も男雛が右側でした。この左右の位置が入れ替わった時期は、昭和天皇が即位された時に欧米にならって左側に天皇陛下、右に皇后陛下が並んだことから変わったようです。しかし京都雛は現在も大正以前から向かっ

て右側が男雛、左側が女雛の飾り方をして

います。
二段目は三人官女で、向かって左から加えの銚子を持った官女、中央が三方を両手に、そして長柄銚子を持った官女の配置となっています。なお、中央の官女には三方の変わりに島台（京都風）を使用するものもあります。

三段目は五人囃子で、子ども風に作られた人形で、向かって左側から太鼓・大鼓・小鼓・横笛・謡いと配置されます。

四段目は隨身で、向かって右が左大臣で左が右大臣です。また老人の大臣が左となり上席となっています。なお、隨身とは護衛の武官を指します。

五段目は仕丁の三人です。泣き、笑、怒りの三つの表情で作られていることが多いようです。

六段目は上級武家の婚礼道具になぞられているそうです。

七段目は真ん中に重箱そして両側に御駕籠と御所車を配置しています。

最近では三段雛や五段雛など場所の問題で簡素化されたものが主流となってきました。また、お子様が大きくなり飾らなくなってきましたが、雛祭りの人形は、当時の風習や文化を窺い知ることができるものです。是非所有している家庭の皆様は飾ってみてはいかがでしょうか？

（農家グループ 平山）



ビックリひなまつり
展示風景（農村歌舞伎舞台）

— ボランティア活動記 —

「昔のくらしボランティア」

房総のむらでは、上総・下総・安房の三か所の農家を使用して、「昔のくらしボランティア」が活動を行っています。

「昔のくらしボランティア」では、農家のかまどに火を入れて茅葺屋根の燻蒸を行うとともに、来館者の方々へ昔のくらしの解説をする活動を行っています。

茅葺屋根は、かまどや囲炉裏などを日常的に使用し煙を出すことによって防虫・防腐効果などに繋がり、より長く保つことができます。房総のむらでは、農家の体験演目などで月に一、二回ほどかまどを使用しています。日常的とまではいきませんが、そのため、ボランティアの方々による活動によって、かまどを使用する日数を増やしています。

活動日は不定ではありませんが、活動日に校外学習で訪れた小学生は「これは本物の火ですか？」と興味深いかまどを見学し、ご夫婦で訪れた来館者の方には「子どももの頃、火の番をしていたことを思い出した」と懐かしんでいただいています。

また、今年度からは、かまどだけでなく安房の農家の囲炉裏での燻蒸活動も行っています。安房の農家は、かまどのある台所と囲炉裏のある主屋が分かれた分棟型の建物で、かまどに火を入れるだけでは主屋側の茅葺屋根の燻蒸効果は図れないためです。囲炉裏での活動でも小学生と囲炉裏を囲んで「お母さんが座る場所はどこだろう？」と昔のくらしの解説を行ったり、初めて房総のむらに訪れた来館者の方とゆっくり会話したりと、安房の農家が上がって見学していただく機会も増えたように思えます。

ぜひ、活動日にご来館いただいた時には昔の農家の生活風景をゆっくりとご見学してみてくださいはいかがでしょうか？

（農家グループ 長谷川）



かまどの火入れの様子（下総の農家）

— 収集資料の紹介 —

「房総のむらのポスト」

房総のむらにある郵便ポストは何色かご存知でしょうか。実は黒い色をしています。これは、日本の郵便制度が確立した明治四（一八七二）年に使われていたポストを再現しているためです。かつては木で作られていて、加工しやすく、手に入りやすい杉材が用いられていました。特徴は一本柱に「書状集箱」と書いた四角い箱を乗せ、その上には屋根が付いていました。

このような書状集箱は全国に百四十九本設置されました。まず東京・京都・大阪の順で主要地に二十五本が設置され、北海道沿いの宿場町には屋根のない種類が百二十四本設置されました。屋根がなかったのは商店の軒下を使うためだったようです。しかし、黒く、目立たないと評判が悪いくことから、明治三十四（一九〇二）年に赤いポストが作られ、今日まで百年以上続き、現在、全国に約十八万本のポストが設置されています。



むらの書状集箱

房総のむらに「書状集箱」が設置されたのは、平成元（一九八九）年十一月三日でした。当時の総務庁長官水野清氏や栄町長藤江恭氏を招いて、盛大な除幕式を行いました。当時の様子は千葉日報の十一月二十七日発行の北総版で紹介されています。

今年、印西市にお住まいの方から設置にあわせて発行された記念切手帳の寄贈を受けました。これは地元安食郵便局で発行され、館内でも郵便局の臨時販売所を設けて販売したそうです。写真を見ると、町並みの各店が黒くなっている、現在では白くなっている店もかつては黒く光っていたことがわかります。

ます。三十年の歳月を感じさせる写真でした。

そして今年、父といわれ、前島密の没後百年です。何か縁を感じるような資料でしたので紹介させていただきます。

ご寄贈いただいた記念切手帳



明治初期 都市用ポスト
千葉県 H1-106 売価 515 円
安食・栄安食郵便局

房総のむらの「書状集箱」も実際に使われ、一日一回郵便局が取りに来てくれます。ご来館の折には少しでもだけに留めてみていただければと思います。

（商家グループ 石毛）

「房総座」

房総のむらでは、年に三回『房総座』を開催し、落語を上演しています。江戸情緒あふれる房総のむらでタイムスリップ気分を味わいながら、滑稽な笑い話や心温まる人情話をお楽しみいただける人気演目です。

今年度第三十七回から第三十九回房総座は柳家三三師匠、柳家三之助師匠をお迎えし、「佐々木政談」「棒鱈」「橋場の雪」などの演目を上演していただきました。声色や体の向きを変えて何人も登場人物を演じ分け、扇子や手ぬぐいを別のものに見立てて巧みに用いる様子に引き込まれ、客席にも毎度笑い声が上がりました。

昨今はお茶の間でお馴染みの笑点のほかに、映画やテレビドラマ、漫画作品などでも度々話題となる「落語」ですが、そもそも落語とはどんなものでしょうか。一般に、滑稽な吐き笑わせ、落ちで終わる話を落語といいますが、まくら一本題一下げという定型があります。源流としては、戦国時代に武将の話の相手をした御伽衆とも考えられており、彼らの吐きを集めた『戯言養気集』（作者不明）からもうかがえます。江戸時代に

なると、貴族、武家、僧侶から庶民までを描く笑話本が人気を集め、安楽庵策伝により庶民の間で広く流行した笑話を集めた『醒醉笑』も生まれました。

話のおもしろさを流れの終わりに効果的に置き、落ちをつけて演じる話芸が落語と呼ばれるようになるのは、寄席落語が軌道に乗り始めた江戸時代の寛政期の頃とされます。幕末には「落語」の名称が定着し、職業としての落語家も多く存在しました。今日上演されている演目も、この頃に発展した本題が継がれています。

また、今年度は定式幕と高座を新調し、会場も明るくなりました。次回、第四十回『房総座』は、六月に講談師田辺鶴瑛師匠をお迎えし、講談を上演します。お得な前売り券もございますので、この機会をお見逃しなく、皆さまのご来場をお待ちしております。

（広報・普及グループ 古山）



第37回 房総座落語会の様子
（柳家三三師匠）

平成三十一年度 さくらまつり

さくらには、さ(田)の神が宿ると言われます。桜の花が咲くと心がそわそわするのもそのせいでしょうか。

房総のむらの約五十一ヘクタールの敷地内には、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオシマザクラやしだれ桜など三百本を超える桜を見ることが出来ます。今年は、さの神さまのお出ましが早く、多くの桜が三月中旬に満開となりそうです。桜を楽しみにおいでいただいたお客様へのおもてなしとして、三月三十日(土)・三十一日(日)の両日に「お花見イベント」を企画しました。三十日には、血回しと輪鼓を、三十一日には、時代紙芝居や時代似顔絵などの大道芸を、咲き誇る桜の下で実施する予定となっています。

新年度の四月六日(土)・七日(日)には、恒例の「さくらまつり」を開催します。春本番、桜を愛でながらさまざま催しを行います。隣のドラムの里でも、第十九回「栄町さくらまつり」を同時開催しますので、ぜひ一緒にお楽しみください。



さくらまつりでは、総屋二階で「動物ものまね」や「紙切り」の上演、大木戸前では、ひよっとこ一座の「人形振り」や「和妻」などの大道芸がにぎやかに繰り広げられます。また、上総の農家では、客間にしつらえた舞台で、優雅に箏の演奏が行われます。

体験演目では、ほのかな色味が可愛らしい桜色の葉書作りや野点、古代衣装体験などがあります。農家ではさくら茶やみそコンニャクが味わえます。

また、よしず小屋では自然ガイドボランティアが、桜の種類を解説する「サクラいろいろガイド」を実施します。

春の穏やかな一日をご家族やお友達と、房総のむらでゆったりと過ごされてみてはいかがでしょうかでしょうか。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

(広報・普及グループ 地引)



野点の風景 (武家屋敷)

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設置、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



◆編集後記◆

冬の寒さもおさまり、春の暖かな風がやってくる季節となりました。房総のむらの桜も咲き始めており、今年も満開の桜が見られることでしょう。

さて冒頭で紹介しましたトピックス展「むらの昆虫」ですが、当初の予定では三月十七日まででした。しかし、子ども達はもちろん、かつて虫取り少年だった私をはじめ、大人の方にも好評ということで会期延長となりました。ぜひこの機会にご覧ください。

(広報・普及グループ 高原)

平成31年度上半期のイベント

- さくらまつり
4月6日(土)・7日(日)
- 春のまつり
5月3日(金・祝)～5日(日・祝)
- 伝統芸能入門
5月18日(土)・6月15日(土)
8月25日(日)
- 房総座
6月23日(日) 講談師：田辺 鶴瑛かくえい
- 教職員を対象とした博物館活用研修会
8月1日(木)
- 「eco 生活事始め
—考古資料から見た上手な資源の使い方—」
8月3日(土)～9月23日(月・祝)
- むらの縁日・夕涼み
8月11日(日)・12日(月・祝)
- 北総江戸めぐり(我孫子市)
9月29日(日)